

# 戦略

## 気候変動・自然に関するリスクと機会

気候変動・自然に関して、下表のようなリスクと機会を認識しております。なお、気候変動のリスクと機会については次ページのように事業者・機関投資家の双方の観点から、シナリオ分析を実施しています。

気候変動と自然資本・生物多様性は密接に関連している

ことから、TNFDは、気候・自然に関する統合的な開示を進めることを奨励しており、これをふまえ、気候変動リスク・機会と自然関連リスク・機会を統合したかたちで整理しています。

### ● 気候変動・自然関連のリスクと機会

		リスクと機会	事業活動への主な影響	時間軸 (注3)	影響度
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 気候変動関連 (自然関連と共通するものを含む)</li> <li>● 自然関連</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業者</li> <li>■ 機関投資家</li> </ul>		
物理的リスク	急性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 世界的な気温上昇や海水面の上昇等に伴い、風水害 (台風や高潮、集中豪雨等) が激甚化・頻発化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 職員・営業職員、店舗・ITシステム、交通インフラ等の被災に伴い、被災地域で事業を一時的に休止</li> <li>■ 保有不動産の損害保険料が上昇</li> <li>■ 投融資先企業の被災やサプライチェーンの寸断に伴い、当社が保有する株式・社債・貸付金等の価値が毀損</li> </ul>	中期～長期	中～小
	慢性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 熱中症の増加や熱帯性の感染症 (マラリアやデング熱等) が流行</li> <li>● 大気汚染の深刻化や有害物質を含んだ食品摂取による健康被害、および生物多様性喪失に伴う新興感染症の流行</li> <li>● 干ばつ等に伴う農業生産力の低下、水質汚濁や海洋生物の多様性喪失等に伴う水産資源の減少等により、食品価格が高騰</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 被保険者の死亡・入院等の増加に伴い保険金・給付金の支払いが増加</li> <li>■ 気候変動・自然破壊の継続的な影響による災害の頻発化により、投融資先企業の事業継続が困難となり、当社が保有する株式・社債・貸付金等の価値が毀損</li> </ul>		
移行リスク	政策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CO<sub>2</sub>排出に関する規制の強化や化石燃料賦課金・特定事業者負担金等のコストが増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 当社が保有する不動産・社用車等のCO<sub>2</sub>排出量を削減するためのコストが増加</li> <li>■ 投融資先企業の業績悪化により、当社が保有する株式の株価下落、社債のデフォルト、貸付金の回収不能が増加</li> </ul>	短期～中期	大～中
	技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CO<sub>2</sub>排出量の多い企業の業績が悪化 (代替製品に需要がシフト、CO<sub>2</sub>排出量の少ない新設備導入に伴うコスト増加)</li> </ul>			
	市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然資本 (森林、土壌、水、大気、生物等) に大きく依存している企業の環境保全のコスト増加による業績悪化</li> </ul>			
	評判	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 気候変動リスク/自然資本保全への対応が不十分な企業の社会的評価が低下</li> </ul>			
機会		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 風水害や熱中症、感染症等に対する、お客さまの予防意識や治療等に対する経済的なニーズの高まり</li> <li>● 環境技術 (低炭素化技術) や再生可能エネルギー・蓄電池等の新技術の開発・導入が進展</li> <li>● 消費者の環境・自然保護に向けた行動や商品・サービス選好の変化</li> <li>● 水・海洋資源、森・土地資源等の保全・改良に資する投資や新技術の開発・導入が進展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新しい保険商品や金融サービスの開発拡大</li> <li>■ 気候変動対策や自然環境保護に積極的に取り組むことによって、当社の社会的評価が向上</li> <li>■ 脱炭素化や自然環境保護に貢献する研究開発、設備投資が増加し、これらの企業・プロジェクトに対する当社の投融資機会が増大</li> <li>■ 新たな医療技術開発、設備投資に対する投融資機会拡大</li> <li>■ 環境性能の優れた当社オフィスビルへの需要増加</li> </ul>	短期～中期	中～小

(注3) 短期：今後2～3年以内に顕在化する可能性が高いリスク、中期：2030年頃までに顕在化、または本格化する可能性が高いリスク、長期：2030年以降に本格化する可能性があるリスク